

不登校総合対策【不登校特例校分教室】について 東京都福生市 R5.10.11

資料

**不登校特例校分教室について**

不登校生徒の居場所

特別の教育課程に基づく学力保証

標準法に基づく正規教員の配置

不登校生徒の社会的自立に向けた学びの場を創出

↓

東京都では……

分教室の形の不登校特例校（全国初）を「東京版不登校特例校」と位置付け、設置を促進

**福生市不登校特例校分教室について**

◆学校名・分教室名  
福生市立福生第一中学校  
分教室名：7組

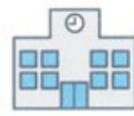
◆対象となる生徒 定員 20名（現在 15名）  
福生市立学校に在籍している生徒

①心理的に不安の傾向等があり、連続又は継続して30日以上欠席した不登校生徒  
②欠席が30日未満でも、以下の項目の全てが当てはまる生徒

- ・不登校の傾向が見られる生徒
- ・より小集団での学習が適切であると学校が判断した生徒

◆不登校特例校分教室のカリキュラム

- ・個別学習の時間、福生版プロジェクト学習の時間の新設
- ・一人一人に応じたペースで学習を実施



**【不登校特例校分教室】設置の背景**  
福生市では不登校出現率が、以前より国や都の数値と比べると高い数値を示しており、様々な不登校施策を打ち出し実施したが中学校のH29年度の不登校出現率は4.53%（全国平均 3.25%）更にH30年度 6.46%（全国平均 3.65%）と高い状況が続いていた。在籍学校に復帰することのみを目指すのではなく、生徒にとって最も大切な役割となる社会的自立に向けた支援を担った支援機能を備えた東京版【不登校特例校分教室】を新たに設置していくこととなり、R2年4月に開室。

**【不登校特例校分教室】の特徴**  
不登校に対して、学校ごとの対応とは別に、上記、資料のとおり、新たな学びの場として福生市立福生第一中学校に分教室名：「7組」として設置。  
※定員20名に対して、校長、副校長、主任各教科担当10名とスクールカウンセラーを含め、正規職員を多く配置。

**視察を終えて…**  
10月4日文部科学省が公表したR4年度の小中学校の問題行動・不登校調査では不登校の小中学生数は30万人に迫るものでした。島根県では国公立立小中学校での不登校(30日以上欠席)児童生徒数は前年度を386人上回る1,937人。千人当たりでは37.7人で茨城、沖縄に次いで全国で3番目に多い結果となりました。

松江市でも県同様、502人から90人増加し592人となり重く受け止めております。コロナ禍を機に急激な増加を見せており、R4年度、不登校出現率については、小学校 2.83%（全国平均 1.7%）中学校 6.55%（全国平均 5.98%）と深刻な状況といえます。

文科省の調査では約4割が学校内外での支援を受けられておらず、多様な「居場所」の確保が急がれると感じます。

「居場所」のひとつとして【不登校特例校分教室】は大変有効であると感じました。視察では、この取組が不登校の長期化を防いでいる…との成果が報告されました。松江市の現状をしっかりと把握し、現場の声を聞いたうえで、松江市にふさわしい設置を目指し活動を進めたいと考えます。

サングケアラーSOS事業について 群馬県高崎市 R5.10.12

資料

最近耳にする機会も増えてきた「ヤングケアラー」は、育児・介護・家事など大人が担う部分を家庭の事情により行っている児童・生徒を指します。

松江市もこの9月から予算を付けて施策として取り組んでいく事業です。しかし、家庭内で起こっているのが、顕在化しにくい事が課題として挙げられ、この課題にいち早く取り組んでいる高崎市の全国初の取り組みを視察しました。

高崎市では、行政の縦割りによる弊害をなくすため、教育委員会へ福祉課を設けました。ヤングケアラーを教育委員会が所管し、学校である教育現場に福祉の視点を入れることで児童・生徒の変化に気づきやすくなりました。家庭の状況にも寄りますが、相談からサポート開始まで最短で1週間、最長で1年です。実際のサポートについては、介護職員100名を雇用する民間の介護事業所の「ケアサブライズシステム」が担うことで、柔軟な対応が可能になっています。また、施策に制限が掛からないよう費用は、すべて市の一般財源から支出し、9,700万円の予算を充てています。現在のところ相談件数100件で、派遣に至ったのは27件となっています。

「高崎の子供は、高崎で守る」とする、市長の気概があって、出来ている部分もありますが、高崎市の事例を参考にしながら、松江市も教育に「福祉の視点」を入れて、速やかな支援ができるよう取り組んでいきます。

**こんな子どもたちがヤングケアラーです**

ヤングケアラーとは、さまざまな事情により、お手回しの範囲を超えて家事や介護など家庭内で行う子どもたちのことです。例えば、次のようなことをしている子どもたちです。



掃除・洗濯・買い物・調理などの家事をしている



幼い子どもを預かるなどの役割をしている



障害や病気のある家族の身の回りの世話をしている

他にも…

- ▶ 第一高学年日本書道大会の準備や発表のため練習している
- ▶ がん、糖尿病、精神疾患など家族の病気の世話をしている
- ▶ アルコール・薬物・ギャンブルの問題を抱える家族に対応している

**ヤングケアラーSOSの支援**

サポートが、原則2人で自宅を訪問。子ども1人ごとにワーキングチームを構成し、状況に合わせた支援を行います

<b>利用時間</b>	1日2時間、週2日まで
<b>支援内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 掃除・洗濯・買い物・調理などの家事</li> <li>● きょうだいの世帯</li> <li>● 高齢の家族や障害のある家族への介護（食事や排せつの介助や、衣類やシーツの交換など）</li> </ul>
<b>対象</b>	家事や介護などを日常的に行っている中学生と高校生（要望があれば小学生も対象）
<b>費用</b>	無料

認知症施策について 東京都町田市 R5.10.13



松江市で行われているカフェ形式の寄り合いは、公民館や支援センターなどの公的機関での開催が多い。今回視察した町田市は、「Dカフェ」と称し、民間事業者であるスターバックスと連携することにより来訪者への敷居を下げ訪れやすくしたことに加え、認知症の啓発活動の一翼を担うものと説明がなされました。開催場所は、市内4ヶ所の店舗で、開催回数は月1回とされています。参加費は無料ですが、飲食費は自己負担です。

たまたま店舗に居合わせた方が、身内の相談に乗ってもらケースもあり、開かれた空間で開催する意義が大いにあります。

**令和5年12月定例会 主な日程**

11月28日	本会議（会期の決定、提案説明）
12月4日	本会議（一般質問、代表質問）
12月5日	本会議（一般質問、一問一答質問）※
12月6日	本会議（一般質問、一括質問）※
12月7日	総務委員会
12月8日	教育民生委員会
12月11日	建設環境委員会
12月12日	経済委員会
12月15日	予算委員会
12月13日～19日	特別委員会が開催されます
12月20日	本会議（最終日）

※ 12月5日もしくは6日に登壇予定です

松江市議会議員 原田まもる通信

# 地域をまもる。だより

## Vol.7



〈発行日〉2023年11月25日  
〈発行者〉原田守後援会事務所/松江市雑賀町225 TEL.0852-27-0925 FAX.0852-20-0460

**新型コロナウイルス 5類移行から半年**

新型コロナウイルスが感染症上5類に移行されてから、半年になります。学校行事、地域のお祭り等、コロナ禍前の状態にほぼ戻って開催されたことは喜ばしいことです。しかし、コロナ禍前とは大きく異なり、季節外れのインフルエンザ感染の勢いが衰えず、松江圏域は警報レベルで今後さらなる流行の拡大、咳止めなどの医薬品の不足が心配されます。

また、一畑百貨店の閉店(来年1月)、B1新基準に対応するスサノオマジックのホームアリーナ増改築、松江水郷祭の有料観覧席、公共交通であるバスの減便、市ガス事業民営化等々、市民の皆さまの関心事項がさまざまあります。

10月20日には、松江城に近い県庁前の一角に高層マン

ション(19階)を建設する計画が諮問され、松江市の景観審議会の答申では景観計画の基準に反しないとの見解は示されました。しかし、周囲には「これを認めると今後のマンションの乱立が心配である」「高さを下げてはどうか」などの意見が相次ぎ、私も慎重な議論が不可欠であると強く感じ、市民の皆様、担当部門、議会内等、様々な意見交換をしています。

ここで挙げました事例以外にも、市民の皆さまが関心を大きく示し、問題視しておられる事項に私も大きな関心を寄せ、日々、市の執行部と協議を重ねているところです。

これからも限られた紙面ですが、有効に活用し、情報発信してまいります。

**今年の「夏」「秋」は、フルスペック!!**

古志原地区、夏の一大イベント「古志原ふるさとまつり」もコロナ禍を経て飲食ブース（ちなみに私は、ブースの皆さまと焼き鳥1,000本! 焼きました!）を再開して、盛大に開催されました。(7/23)子供たちは、浴衣姿で「ヨーヨー釣り」「スーパーボールすくい」などに熱中し大賑わいでした。

来場者はなんと1,000人! あらためて古志原地区のパワーを実感しました。

秋の「古志原公民館まつり」(10/29)は人の往来がゆったりするよう、ステージが工業高校寮側に設置されました。来場者は昨年より100人多い1,500人!開会式直前の雨にも瞬時に対応。オープニングは 松江南高校 吹奏楽部の皆さん、雨の中素敵な演奏ありがとうございました♪♪それから3時まで沢山の出演者の皆様によるパフォーマンスも素晴らしかったです。

このふたつのイベントの成功に欠かせなかったのが、中学生 高校生のボランティアスタッフです。地元の子供たちが世代を超えて住民と繋がることは、地域の大きな活力になります。子供たちの住みよい地域を作るために、しっかりサポートしていこうと思う日々です。



**観光再始動事業・・・京橋川沿いに「マツエテラス」完成!!**

先ずは9/9、水都・松江市の中心部を流れる京橋川沿い(京店・片原)に全長150メートルのテラス(杉のカウンターを設置)が完成しました。松江水辺エリアマネジメント協議会の企画(観光庁補助金活用)によるもので、名付けて「マツエテラス」。幅42センチのヒノキのベンチ7台も設置され、夜間はPM10時までライトアップ。川をゆく堀川遊覧船やレトロな旧日銀松江支店をベンチに座ってゆったり眺めながら飲食を楽しむことができます。

以前から趣のある京橋川遊歩道の有効活用、水辺の魅力をさらに高めることはできないものかと模索しておりましたので、テラスの完成を喜びました。

カラコロ工房リニューアルオープン(令和6年10月完成予定)に向けてテナント出店者の募集が開始されました。これからの取り組みで、水都・松江の魅力がさらにアップし、にぎわいの創出につながることを今から楽しみです。



**松江まつり 警行列開催!! 令和5年10月15日**  
朝方の雨が見事に上がった秋空のもと、松江の秋の風物詩「松江祭警行列」が、開催され、私も参加しました。昨年はマスク着用の制限がありましたが、通常開催に戻った今回はおひとりおひとりの生き生きとした表情がまぶしく、心から楽しそうな笑顔が見られました。「祭り」はやっぱり「笑顔」があふれてなんぼでしょう。

## 6月定例会 一般質問〈抜粋〉

市報松江、報道等でご存知の方も多いかと思いますが、この度、松江市が島根県内で初めてSDGs未来都市に選定されました。私はかねてより、SDGsに高い関心を持っており、市政はSDGsの基本理念「\*だれひとり取り残さない\*」を持って行われるべきと考えております。そこでSDGs未来都市選定後の市の取組について、様々な質問をいたしました。



SDGsとは、国連において2015年、持続可能な開発目標として合意されました。

### 1 松江市中海振興ビジョンについて

**Q** 松江市中海振興ビジョンでは、SDGs 17のゴール全てを網羅し中海の可能性に言及している。まず、中核を担うべきものを伺う。

**A** 中核となる施策については、SDGsの3つの側面である、経済、社会、環境、それぞれで整理している。環境については中海エリアの自然の豊かさを守り、それを後世に伝えていくこと、社会についてはスポーツパークの整備による拠点づくりや体験型レジャーにより暮らしを楽しむ場としていくこと、さらに経済については中海エリアの食材や特産品のブランド化とともに、水産資源の回復によって産業基盤を強化していく。

### 2 SDGs 未来都市選定について

**Q** 選定されたことで具体的に得られるものは何か、予算措置を含めて伺う。

**A** 関連する施策の推進にあたり、関係省庁や選定審査いただいた外部委員会の有識者からの助言による支援、さらにデジタル田園都市国家構想交付金の申請可能事業数が1事業枠追加されるメリットがある。また、モデル事業採択により本年度に限り、地方創生支援事業費補助金が申請できる。今年度はコンソーシアムの設置準備や啓発動画の作成などを予定しており、財源の確保に向け協議を進める。尚、SDGs未来都市選定は全国1,700以上ある地方自治体のうち182都市であり、モデル事業の選定は60都市であるから、制度のメリット以上の価値があると捉えている。

**Q** SDGsモデル事業では17のゴール(目標)の数を限定しているが、限定に至った理由、何を指しているか伺う。

**A** 本市が取り組む施策については、SDGsが目指す17の目標全てにつながっている。一方でSDGs未来都市選定では、地域の個性を際立たせることにより、SDGsの達成と地方創生を実現するものとされている。そのため本市のモデル事業提案に当たっては松江市の特徴を印象づける水の都を核にSDGsの6番目の目標である「安全な水とトイレを世界中に」14番目の目標「海の豊かさを守ろう」などいくつかPRポイントを絞り国際文化観光都市・松江ならではの豊かさの創出を目指している。

**Q** カーボンニュートラルに向けた再生可能エネルギーに関して 廃食油の回収について伺う。持続可能な航空燃料、いわゆるSAF(化石燃料と比較して二酸化炭素の排出を大幅削減が可能)については、今年に入り一層注目が集まり、原料の廃食油の取引価格がこの1年間で3倍に高騰したとの報道が相次いでいる。このタイミングで、松江市はSDGs未来都市に選定され、廃食油回収(平成23年度に終了)再開の好機と捉えるが、見解を伺う。合わせて使用済み割り箸回収の再開について見解を伺う。

**A** 廃食油回収の当初の目的は家庭排水への流出予防の啓発であったが、下水道の普及により河川の水質改善が図られたことから終了した。SAFについては国の動向を注視しつつ、回収の可能性について検討したい。また、割り箸については受入依頼先の王子製紙米子工場の設備の老朽化により受入困難となり、今後再開予定はない。

### 回答を受けて

現在、家庭において発生する、**廃食油は国内で年間約10万トンに上っており、そのほとんどが再利用されずに可燃ごみとして廃棄されている**。大手スーパーマーケットチェーンでは専用容器を用いた回収実証実験を2月より開始している。リサイクルすれば貴重な資源となり、ゴミの削減、すなわちCO2削減となる。リサイクルできるものがさらに増えて、ゴミの分別が「燃やせるゴミ」から「燃やさないゴミ」へと発展するよう、積極的な取組を期待する。

### その後

#### ユーグレナとの協定締結と廃食油回収を検討

松江市は10月バイオ燃料事業などを手がける(株)ユーグレナと「カーボンニュートラル」の推進、バイオ燃料の普及啓発という内容で協定を締結しました。先ずユーグレナの次世代バイオディーゼル燃料「サステオ」を清掃収集車に使用する他、原料となる廃食油の回収も検討することです。SDGs未来都市選定後の取組【松江城に代表される歴史と宍道湖・中海といった松江市特有の自然環境を生かして、地域経済の持続可能な発展を目指す】を成功に導くためには、官民の取組はもちろん、市民の皆さまおひとりおひとりの行動が重要になってくると考えます。朝日新聞の第9回SDGs認知度調査(2月実施)によると、「SDGsに関心あり」が初の過半数(53.1%)とありますが、周囲には「何をしたらいいかわからない」との声もあります。SDGsは壮大な目標ですが、身近な目標でもあります。松江市の皆さまの関心度がさらに高くなるよう、オール松江でSDGsに取組むことができるよう、引き続き有効な策を提案して参ります。

## 9月定例会 一般質問〈抜粋〉

### 1 2023松江水郷祭について

今年の松江水郷祭では過去最高の2万発の花火が打ち上げられ、人出は昨年40万人に対して今年は65万人…との報道があり、これまでで最大規模の開催となりました。ただ、有料観覧席(昨年の10倍に拡大)については、販売が7割弱にとどまり、「有料なのに場所取りが必要だった」との批判も聞かれました。来年の開催に向けて、今回の徹底した検証が必須であることから、さまざまな質問をいたしました。(一部を掲載)

**Q** 今年度は社会実験として開催されたが、最終形態の完成は何年後を想定しているか伺う。

**A** 持続可能な花火大会として継続するために、新たな運営モデルの構築が必要だと考える。実証実験で得た成果や課題を分析しながら、ブラッシュアップしていく必要があり、2年後の2025年の本格実施を目指して取組んでいきたい。

### その後

主催団体がとりまとめたアンケート結果では、有料化については理解を示す人が多かった一方、値段設定について不満が多いことが分かりました。一方、全国では少なくとも25か所で資金難のため花火大会が中止に追い込まれたとの報道がある中、過去最大規模(経済効果は昨年の1.6倍増の24億円余り)で開催されたことは松江市の皆さまにとって、松江市の観光業にとっても大きな意味を持つと考えます。今大会は松江市より補助金として税金1,700万円が支出されており、財源確保は重要な課題です。ふるさと納税の導入などの有効な提案を続けてまいります。

### 個人市内視察 ① 松江バイオマス発電株式会社 松江市大井町 R5.7.26

隣接するナカバヤシ(株)出資のもと、バイオマス発電を行う施設です。市のSDGs推進課、環境エネルギー部の職員の方々と共に再生可能エネルギーの更なる活用を視野に訪問し、現在の課題や発展目標について伺いました。喫緊の課題は「木質チップ」の不足です。全世界的な木材不足と中国電力三隅発電所の稼働による影響です。木質チップの原料が間伐材などである以上、急に増やすことは難しいですが、林業の発展、担い手の育成等、先々打てる手立てがないか考えていきたいです。



### 個人市内視察 ② 株式会社ミライエ 松江市矢田町 R5.10.3

こちらは、堆肥化を中心としたリサイクル設備のプラントメーカーです。宍道湖はもとより堀川、天神川で繁茂する「水草」の処理が問題視される中、県により「宍道湖に係る水草対策会議」が設置される(H25年度より)も、今のところ有効な手立てはなく、ほとんどは焼却処分されています。その中、大量の下水汚泥や食品廃棄物、家畜の糞などを効率的に堆肥に変える装置を開発している(株)ミライエを訪問しました。話を伺う内に資源化や利活用の可能性が見えてきました。今後、市の担当部局と共に調査研究を続け、松江市の環境整備、カーボンニュートラルに尽力してまいります。



### 2 公共交通機関の在り方について

運転手不足により、一畑バスの減便(8月14日から松江市、雲南市で平日20便)が発表されたのに続き、松江市営バスでも10月1日より減便のダイヤ改正が実施されることになり、驚かれた方も多いことと思います。路線バスは市民の皆さまの**貴重な足**であり、減便による利便性の低下も危惧され、影響は大きいことから、今回、取り上げることにいたしました。

**Q** 今後、「松江市地域公共交通網形成計画4次計画」で取組むべき課題を伺う。

**A** 運転手不足が深刻さを増す中、いかに市民の移動手段を維持していくかが次期計画の重要なテーマになると考える。重複した路線を見直すなど一層の合理化を進め、効率のより良い路線、ダイヤを構築する必要があると考える。あわせて、運転士の処遇改善や働き方改革など、運転士の確保に向けた取組についても、次期計画において議論してまいります。

### その後

10月24日、公共交通を取り巻く課題を話し合うプロジェクトチームの会合が松江市で初めて開催されました。今後、深刻化するタクシーやバスの乗務員不足について、議論を深めていくことになり、動向を注視しています。先日、臨時国会の所信表明演説で岸田首相が「ライドシェア\*」について言及され、議論は国会の場に移りました。市民生活に密着した重要な課題として取り組んでいきたいと思っております。  
※一般のドライバーが自家用車を使って有料で人を運ぶサービス

### 実弟が来庁しました(令和5年9月8日)

東京の商社でエネルギー関係の仕事に就いている弟、悟が来庁しました。以前から「業務を通じ故郷である松江市に何か貢献できることはないだろうか」との思いがあった彼ですが、縁あって2年前から、上定市長と意見交換を重ねる機会に恵まれました。

今回は市長から、「MATSUE DREAMS2030」について熱心なレクチャーを受け、今後も情報交換しながら、出来ることを探っていくようです。

今回はTBSドラマ「VIVANT」(ロケ地)繋がりで大いに盛り上がっていました。



※そろって母校は松江南高校です。写真左から・原田守(兄19期)上定昭仁市長(28期)原田悟(弟23期)

### パナソニックバレーボール教室を開催(令和5年6月14日)

松江市とスポーツ振興に係る連携協定を締結しているパナソニックホールディングス(株)のご協力により、パナソニックサングラスの中本選手、伊賀選手、新選手、牧山氏をお招きしてバレーボール教室を開催いたしました。参加した生徒さんがトップリーグで戦う選手のプレーに触れることで刺激になり、今後の競技生活に生かされることを望みます。

今回は、バレーボールでしたが、次回以降はパナソニックが持つ多くのスポーツ競技で教室を開いていただけたと思います。私自身も松江バレーボール協会理事長として、お手伝いしましたが、今後もいちスポーツ競技者として全競技のスポーツ振興に助力いたします。

